

令和 2 年

火災と救急・救助の概要



三木市消防本部

目 次

[火災概要]

地区別発生件数	… 1	火災による損害額(5年間)	… 8
令和2年中の火災概要	… 2~3	管内出火件数・	
火災概要(対前年比)	… 4	損害額の推移(5年間)	… 8
火災の発生状況		出火原因別件数	… 9
地区別出火件数	… 5	初期消火の状況	… 9
月別火災種別出火件数	… 5	火災による死者数(10年間)	… 10
四季別出火件数	… 6	主な火災発生状況	… 10
月別出火件数(5年間)	… 6	高速道路における火災発生状況	… 11
曜日別出火件数	… 6	消防部隊出動状況(対前年比)	… 11
時間別出火件数	… 7		
署別出火件数	… 7		

[救急・救助概要]

令和2年中の救急・救助概要	… 12~14	事故種別救急搬送人員	… 19
救急出場件数	… 15	傷病程度別救急搬送人員	… 19
発生地区別出場件数	… 15	発生場所別救急出場件数	… 20
署別救急出場件数	… 15	事故種別年齢別搬送人員	… 20
救急出場件数の推移	… 16	性別科目別搬送人員	… 20
事故種別救急出場件数	… 16	高速道路における救急活動状況	… 21
月別救急出場件数	… 17	応急処置件数	… 21
曜日別救急出場件数	… 17	救助出動状況	… 22
時間別救急出場件数	… 18	地区別救助出動件数	… 22
現場到着所要時間別救急出場件数	… 18	発生場所別救助出動件数	… 22
病院収容所要時間別搬送人員	… 19		

令和2年中の火災概要

1. 概況

令和2年中の出火件数は30件で、損害額は1,638千円（調査中2件を除く）、建物焼損床面積316㎡、林野焼損面積56a、り災世帯9世帯、り災人員25人となっています。

2. 出火件数

(1) 出火件数

出火件数は30件（前年比8件増）で、12日に1件の割合で発生しています。

出火率（人口1万人当りの出火件数）は3.92ポイント（前年比1.07ポイント増）となっています。

(2) 火災種別毎の出火件数

建物火災10件（34%、前年比同値）が最も多く、次いで林野火災7件（23%、前年比3件増）、車両火災4件（13%、前年比同値）、その他火災9件（30%、前年比5件増）となっています。

建物火災の内訳は、住宅4件、工場1件、その他建物5件となっています。

(3) 死者・負傷者

令和2年中の火災による死者は2人（前年比2人増）、負傷者は4人（前年比2人増）となっています。

(4) 焼損棟数

焼損棟数は11棟（前年比5棟減）で、全焼棟数は3棟（前年比6棟減）となっています。

(5) り災世帯・り災人員

り災世帯は9世帯（前年比2世帯減）で、り災人員は25人（前年比5人増）となっています。

(6) 焼損面積

建物焼損床面積は316㎡（前年比1,154㎡減）で、林野焼損面積は56a（前年比16a増）となっています。

(7) 出火原因

出火原因のトップは「たき火」の12件となっており、「電気装置」が3件、「電灯・電話等の配線」「放火の疑い」「不明（調査中含む）」が各2件、「たばこ」「こんろ」「ストーブ」「こたつ」「電気機器」「配線器具」が各1件、「その他」3件となっています。

(8) 損害額

火災による損害額は1,638千円（前年比39,141千円減）となっています。

建物損害額（収容物含む）は697千円（前年比37,709千円減）で、建物火災1件あたりの損害額は87千円（前年比3,754千円減）となっています。

※ 調査中2件を除く。

3. まとめ

令和2年中の出火件数は30件（前年比8件増）、損害額は1,638千円（前年比39,141千円減）、火災による死者は2人（前年比2人増）、負傷者は4人（前年比2人増）で、出火件数・死傷者数ともに昨年より増加しています。

火災を防ぐためには、一人ひとりが防火に対する意識を変えることが大切です。

昨年に続き、出火原因のトップはたき火でしたが、たき火からの火災を防ぐためには事前に周囲に水を撒くことや、水バケツを用意する等の準備が必要です。火を扱う行為を安易に考えず、慎重すぎるくらいの行動が大切です。

住宅防火対策として、住宅用火災警報器が設置されていたことで、火災を早期に発見でき大事に至らなかった奏功事例もあることから、住宅用火災警報器の設置及び維持管理について啓発してまいります。

火災概要（対前年比）

出火件数は前年と比べ8件増加。火災種別では建物火災が昨年同値で10件、その他火災が5件増加し、林野火災が3件増加しています。

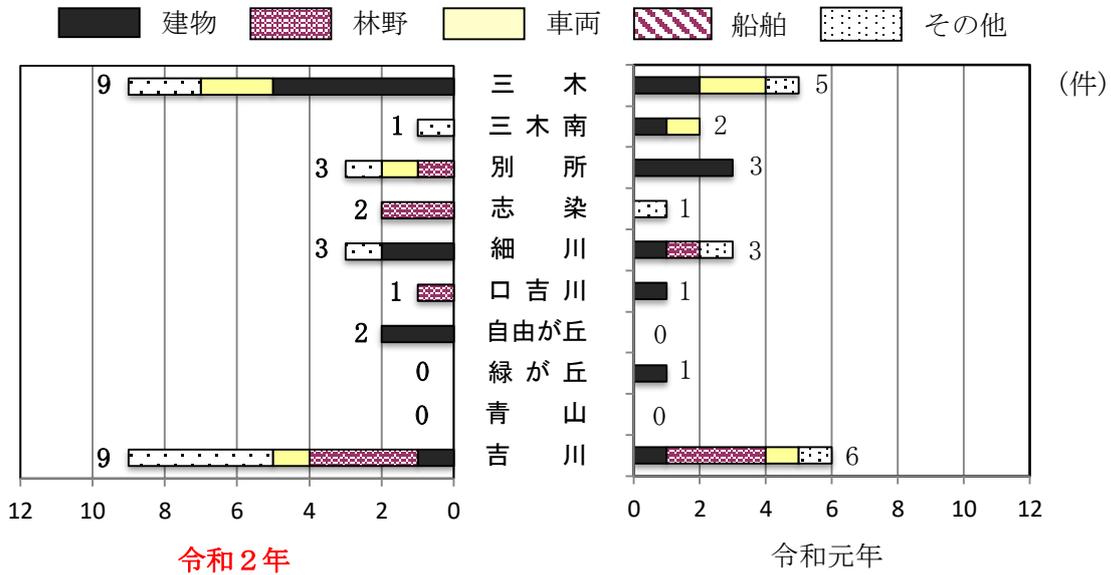
区 分	単 位	令和2年	令和元年	増 減
出 火 件 数	件	30	22	8
建 物	〃	10	10	0
内	住 宅	4	5	△ 1
訳	工 場	1	2	△ 1
	その他	5	3	2
林 野	〃	7	4	3
車 両	〃	4	4	0
船 舶	〃	0	0	0
そ の 他	〃	9	4	5
損 害 額	千円	1,638	40,779	△ 39,141
建 物	〃	697	38,406	△ 37,709
内	建 物	583	29,817	△ 29,234
訳	収 容 物	114	8,589	△ 8,475
林 野	〃	0	0	0
車 両	〃	915	1,863	△ 948
船 舶	〃	0	0	0
そ の 他	〃	26	510	△ 484
爆 発	〃	0	0	0
建 物 焼 損 棟 数	棟	11	16	△ 5
全 焼	〃	3	9	△ 6
半 焼	〃	0	0	0
部 分 焼	〃	4	3	1
ぼ や	〃	4	4	0
爆 損	棟	0	0	0
損 害 棟 数	棟	0	0	0
車 両 等 数	台	0	0	0
焼 損	m ²	316	1,470	△ 1,154
建 物 床 面 積	m ²	150	26	124
建 物 表 面 積	a	56	40	16
林 野	台	3	5	△ 2
車 両	艇	0	0	0
船 舶				
負 傷 者	人	4	2	2
死 者	〃	2	0	2
り 災 世 帯	世帯	9	11	△ 2
全 損	〃	2	7	△ 5
半 損	〃	0	0	0
小 損	〃	7	4	3
り 災 人 員	人	25	20	5
建 物 1 件 当 り の 損 害 額	千円	87	3,841	△ 3,754
〃 焼 損 床 面 積	m ²	32	147	△ 115

※ 損害額については、調査中2件を除く。

△ 印は減少

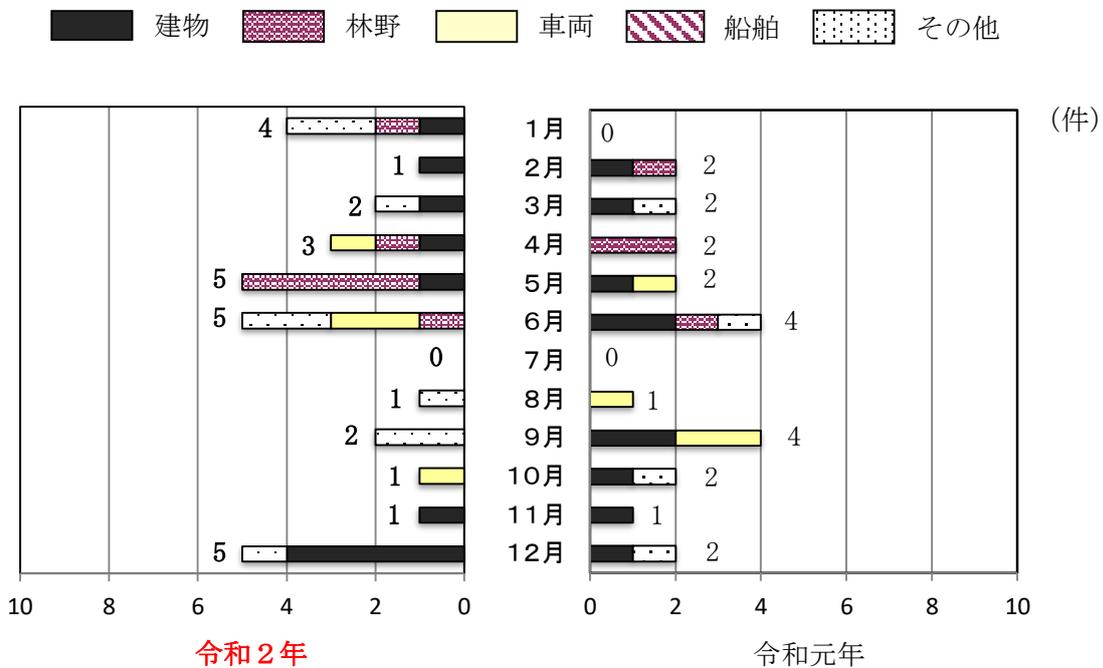
地区別出火件数

前年と比較すると、三木地区、志染地区、自由が丘地区、吉川地区が増加し、三木南地区、緑が丘地区は減少、その他の地区については増減はありませんでした。



月別火災種別出火件数

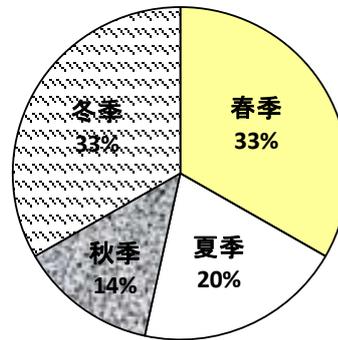
前年と比較すると、1月・4月・5月・6月・12月が増加し、2月・9月・10月が減少しています。



四季別出火件数

春季(3・4・5月)	10 件
夏季(6・7・8月)	6 件
秋季(9・10・11月)	4 件
冬季(12・1・2月)	10 件
計	30 件

出火件数比率

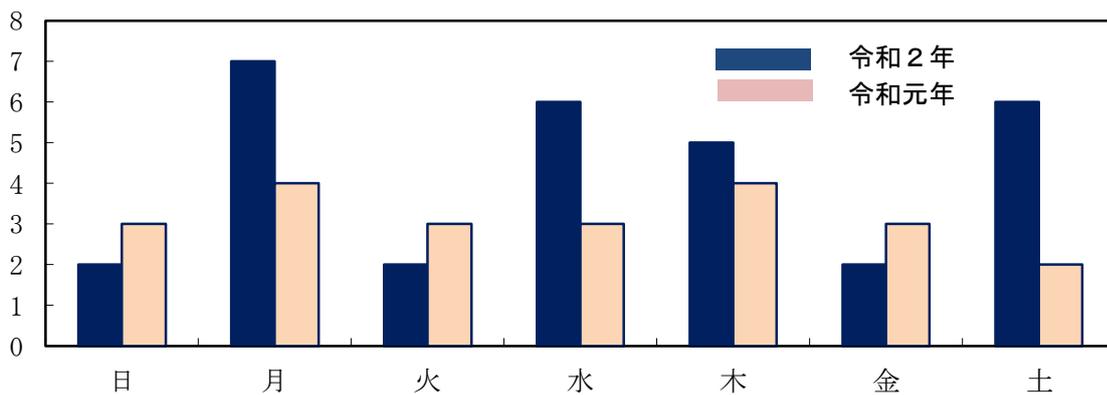


月別出火件数（5年間）

年 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
令和2年	4	1	2	3	5	5	0	1	2	1	1	5	30
令和元年	0	2	2	2	2	4	0	1	4	2	1	2	22
平成30年	5	0	2	5	2	1	2	4	0	1	4	2	28
平成29年	1	3	7	1	8	1	3	2	4	1	2	6	39
平成28年	1	4	4	5	5	0	2	5	1	0	0	1	28

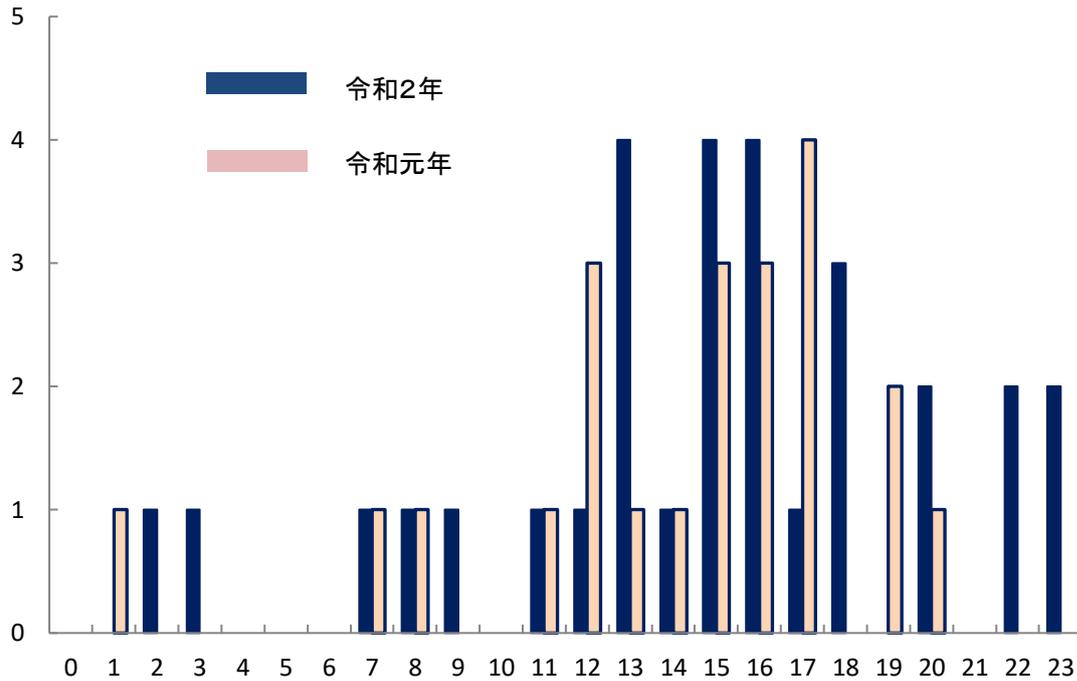
曜日別出火件数

月曜日（7件）、水曜日（6件）及び土曜日（6件）に多く発生しています。



年 \ 曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和2年	2	7	2	6	5	2	6	30
令和元年	3	4	3	3	4	3	2	22

時間別出火件数



年 \ 時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	合計
令和2年	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	1	1	4	1	4	4	1	3	0	2	0	2	2	30
令和元年	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3	1	1	3	3	4	0	2	1	0	0	0	22

署別出火件数

本署、広野分署、吉川分署の3署とも出火件数が増加しています。

種別 \ 年	建物		林野		車両		船舶		その他		合計	
	令和2年	令和元年										
本署	6	7	2	0	3	3	0	0	4	2	15	12
広野分署	2	2	1	0	0	0	0	0	1	0	4	2
吉川分署	2	1	4	4	1	1	0	0	4	2	11	8
合計	10	10	7	4	4	4	0	0	9	4	30	22

火災による損害額（5年間）

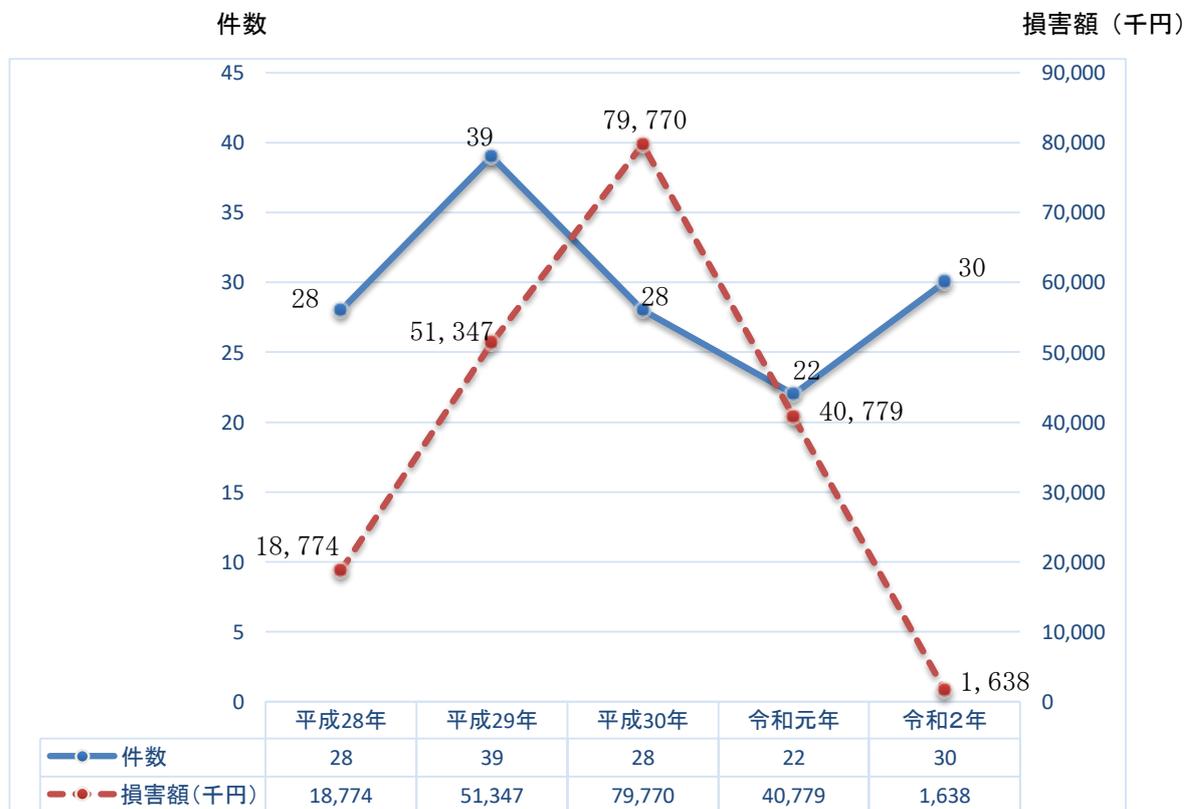
（損害額単位：千円）

項目		令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年
火災損害額		1,638	40,779	79,770	51,347	18,774
内訳	建物	697	38,406	74,185	46,586	15,039
	林野	0	0	0	0	0
	車両	915	1,863	4,520	1,361	3,555
	船舶	0	0	0	0	47
	その他	26	510	1,065	3,400	133
1件当り損害額		59	1,854	2,849	1,317	671
出火件数		30	22	28	39	28
内訳	建物	10	10	18	18	9
	林野	7	4	1	2	4
	車両	4	4	4	6	5
	船舶	0	0	0	0	1
	その他	9	4	5	13	9

※ 火災損害額のその他に爆発損害を含む。

※ 令和2年火災損害額について、調査中2件は含まれていません。

管内出火件数・損害額の推移（5年間）



出火原因別件数

出火原因のトップは「たき火」の12件で、全体の40%を占めています。

出火原因	令和2年	令和元年
たばこ	1	2
こんろ	1	
風呂かまど		
炉		
焼却炉		
ストーブ	1	
こたつ	1	
ボイラー		
煙突・煙道		
排気管		
電気機器	1	
電気装置	3	1
電灯・電話等の配線	2	
内燃機関		1
配線器具	1	
火あそび		
マッチ・ライター		
たき火 ※1	12	8
溶接機・溶断機		1
灯火		2
取灰		
火入れ		
放火		
放火の疑い	2	1
その他 ※2	3	5
不明（調査中含む）	2	1
合計	30	22

※1

たき火欄内訳	令和2年	令和元年
たき火	6	3
虫焼火	6	5
合計	12	8

※2

その他欄内訳	令和2年	令和元年
自然発火		1
金属との衝撃の火花	1	2
穀物乾燥機		1
ロースター		1
サウナヒーター	1	
火のついたゴミ	1	
合計	3	5

初期消火の状況

令和2年は30件の火災が発生し、そのうち21件で何らかの初期消火を行っています。

項目	令和2年		令和元年	
	実施	有効	実施	有効
消火器以外の消防用設備	0	0	0	0
水バケツ	0	0	2	1
消火器	9	3	6	3
水道・浴槽・汲み置きの水	8	4	7	4
寝具・衣類等をかかけた	0	0	0	0
もみ消した	2	0	3	1
その他 ※	2	1	1	1
合計	21	8	19	10
初期消火なし	9		3	

※ その他欄内訳 → スコップで叩く・飲料水（ペットボトル）

火災による死者数(10年間)

年 地区	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年
三木	1		1	1	1	1			1	
三木南										
別所				1						
志染										1
細川	1			1						
口吉川										
緑が丘										
自由が丘									1	1
青山										
吉川									1	
合計	2	0	1	3	1	1	0	0	3	2
兵庫県	—	53	72	57	54	62	70	60	70	54
全国	—	1,486	1,422	1,456	1,452	1,678	1,625	1,721	1,766	1,734

※令和2年の全国・兵庫県の統計については、現時点では発表されていません。

主な火災発生状況

発生 月日	火災 種別	覚知 時間	鎮火 時間	発生場所	火災状況
12/25	建物	2:22	6:26	君が峰町	木造瓦葺2階建て住宅が全焼。 死者1名が発生。
12/26	建物	22:46	2:44	本町2丁目	鉄筋コンクリート造一部木造瓦葺 2階建ての店舗兼住宅が全焼。 負傷者1名が発生。

高速道路における火災発生状況

高速道路における火災は1件となっています。

発生月日	火災種別	覚知時間	鎮火時間	発生場所	火災状況
8/31	その他	23:14	23:30	山陽道上り 22.7 KP	道路結合部のゴムが焼損。

消防部隊出動状況（対前年比）

部隊出動件数は、昨年より10件減少の221件となっています。

種別	年	本署		広野分署		吉川分署		合計		増減
		令和2年	令和元年	令和2年	令和元年	令和2年	令和元年	令和2年	令和元年	
警戒		129	123	42	55	43	49	214	227	△13
応援		2	1	0	1	3	2	5	4	1
風水害		1	0	0	0	1	0	2	0	2
合計		132	124	42	56	47	51	221	231	△10

※「警戒」 偵察・煙火・自火報・誤報・救急支援・油処理・ガス漏洩・その他

「応援」 近隣応援(境界、管轄高速道への出動)

令和2年中の救急・救助概要

1. 概況

令和2年中の救急出場件数は3,622件（前年比416件、10.3%減）で、搬送人員は3,332人（前年比438人、11.6%減）と、いずれも前年を下回りました。

1日の平均出場件数は9.9件（前年比1.2件減）で、市民約21人に1人が救急車を利用したことになります。

令和2年中の救助出動件数は70件（前年比10件増）となっています。

2. 救急出場件数

(1) 救急出場件数

出場件数は3,622件（前年比416件、10.3%減）で、8年ぶりに前年を下回りました。

(2) 発生地区別出場件数

三木地区の1,049件（29.0%）が最も多く、続いて自由が丘地区520件（14.4%）、緑が丘地区393件（10.9%）、三木南地区338件（9.3%）の順となっています。

(3) 事故種別出場件数

事故種別では急病2,135件（58.9%）が最も多く、続いて一般負傷700件（19.3%）、転院搬送349件（9.6%）、交通事故273件（7.5%）の順となっています。

(4) 月別・曜日別・時間別状況

月別では1月の389件が最も多く、続いて8月の357件、12月の351件の順となっています。最も少ないのは4月の233件です。

曜日別では月曜日の551件が最も多く、続いて日曜日の540件です。最も少ないのは火曜日の464件です。

時間別では12時台の255件が最も多く、続いて10時台の250件です。最も少ないのは3時台の49件です。

(5) 現場到着所要時間（覚知～現場到着）

平均所要時間は7.7分（前年7.8分）、5分以上10分未満のものが2,429件（67.1%）と最も多く、続いて10分以上20分未満が709件（19.6%）となっています。

(6) 病院到着所要時間（覚知～病院収容）

平均所要時間は39.9分（前年39.2分）、30分以上60分未満のものが2,253件（67.6%）と最も多く、続いて20分以上30分未満が715件（21.5%）となっています。

3. 救急搬送人員

(1) 傷病程度別搬送人員

軽症1,698人（51.0%）、中等症1,485人（44.6%）、重症114人（3.4%）、死亡34人（1.0%）の順となっています。

(2) 事故種別年齢別搬送人員

急病の1,941人(58.3%)が最も多く、続いて一般負傷647人(19.4%)、転院搬送347人(10.4%)の順となっています。

また、年齢別では65歳以上の高齢者が2,216人(66.5%)を占めています。

(3) 性別・科目別搬送人員

男性1,792人(53.8%)、女性1,540人(46.2%)で、252人男性を多く搬送しています。

内科1,705人(51.2%)が最も多く、続いて脳神経外科625人(18.8%)、整形外科589人(17.7%)、外科231人(6.9%)の順となっています。

4. 応急処置件数

搬送人員3,332人のうち、3,328人に応急処置を実施しており、応急処置件数は、延べ10,147件となっています。

血中酸素飽和度測定と血圧測定が多く、救急救命士による傷病者の蘇生等のために行う特定行為は134件(前年比23件増)となっています。

5. 救助件数

(1) 救助出動状況

出動件数は70件(前年比10件増)で、救助人員34人(前年比増減なし)となっています。事故種別では、建物等による事故が38件(54.3%)と最も多く、続いて交通事故21件(30.0%)となっています。

ます。

(2) 地区別救助出動件数

三木地区が17件と最も多く、続いて自由が丘地区12件、志染地区9件の順となっています。

(3) 発生場所別救助出動件数

住居での事故等が39件(55.7%)で、道路での事故が16件(22.9%)となっています。

6. 救急業務の高度化

高度救急資器材の整備に努めるとともに、気管挿管、薬剤(アドレナリン)投与、心肺機能停止前の輸液、低血糖発作傷病者へのブドウ糖投与が行える認定救命士の養成を行っています。

また、消防機関の担う救急業務の更なる高度化を実現するため、医師による指導、助言、事後検証、再教育等、メディカルコントロール体制の充実を図っています。

7. まとめ

救急出場件数は前年比416件減少の3,622件で、8年ぶりに前年の出場件数を下回りました。コロナ禍で人の動きが少なくなったのも一因であると考えられます。

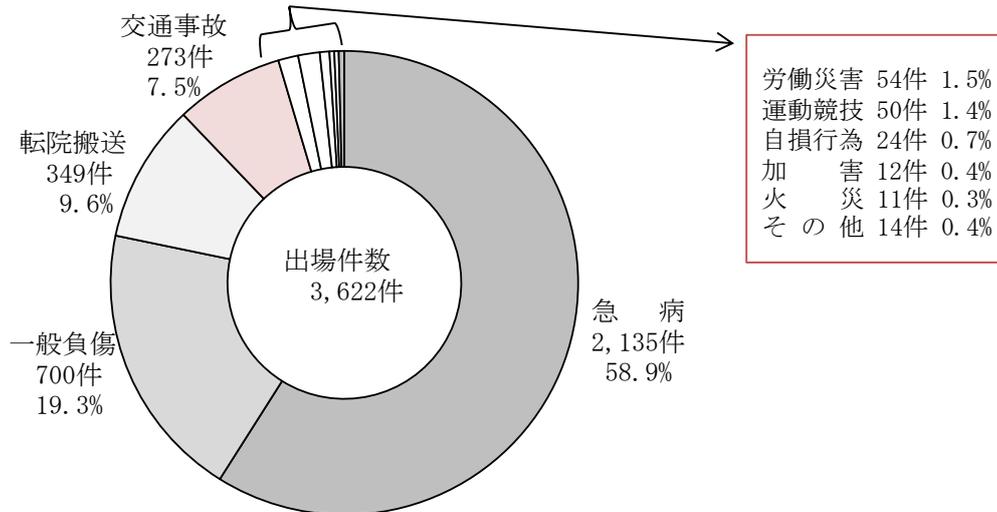
全搬送人員に占める高齢者の比率は66.5%（前年63.1%）で、過去最高比率となっています。

救命率の向上には、その場に居合わせた人による適切な心肺蘇生法と早期除細動（AED）が必要不可欠であることから、応急手当普及員の育成に努めるとともに、上級救命・普通救命講習、救急法講習会を継続的に開催していきます。また、広報等を通じて救急車の適正利用など救急業務への正しい理解と協力を求めてまいります。

救助出動件数については、建物等による事故が近年増加傾向にあり、過去5年間の救助出動件数325件のうち132件と全体の40.6%を占めています。主に一人暮らしの高齢者に対する家族等からの安否確認による出動となっています。

救急出場件数

救急出場件数 3,622 件のうち急病が半数以上を占め、続いて一般負傷の順となっています。



発生地区別出場件数

全地区とも出場件数が減少しています。

地区	令和2年	令和元年	平成30年
出場件数	3,622	4,038	4,036
三木	1,049	1,169	1,141
三木南	338	378	394
別所	337	364	367
志染	262	316	322
細川	116	151	163
口吉川	97	101	111
緑が丘	393	396	402
自由が丘	520	524	501
青山	154	162	162
吉川	331	418	404
高速道	19	53	40
その他	6	6	29

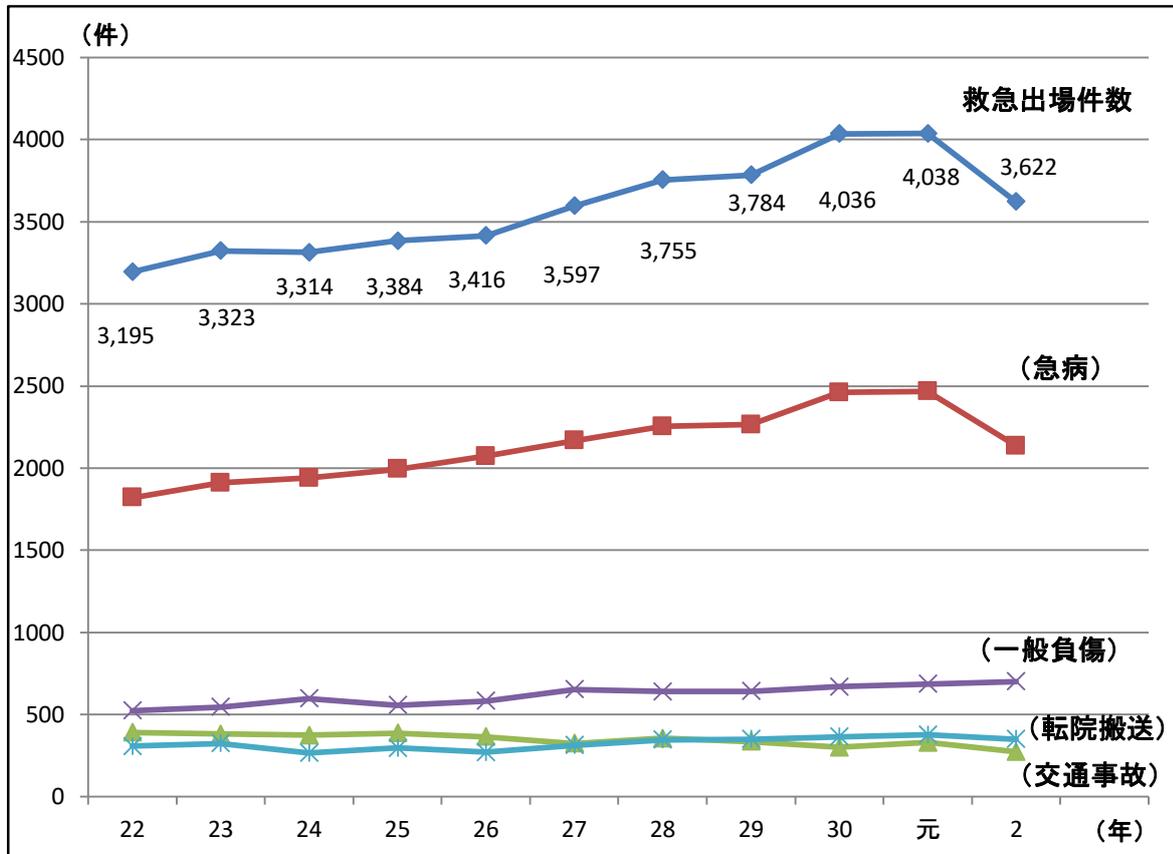
署別救急出場件数

出場割合は、本署 53.8%、広野分署 34.8%、吉川分署 11.4%となっています。

事故種別	本署	広野	吉川
火災	10	0	1
自然災害	0	0	0
水難	0	0	0
交通事故	174	72	27
労働災害	37	10	7
運動競技	24	21	5
一般負傷	368	243	89
加害	11	1	0
自損行為	12	8	4
急病	1,088	813	234
その他	224	92	47
合計	1,948	1,260	414

救急出場件数の推移

救急出場件数は3,622件で前年比416件減少となっています。



事故種別救急出場件数

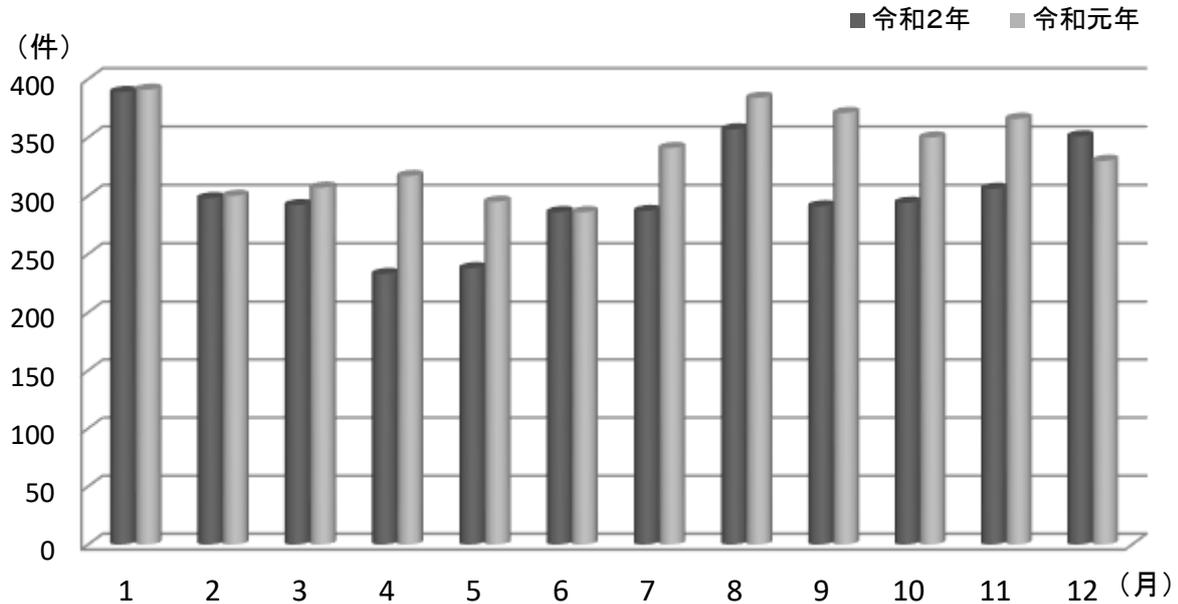
急病と交通事故の減少が目立っています。

事故種別		年	令和2年	令和元年	増減
火災			11	6	5
自然災害			0	0	0
水難			0	0	0
交通事故			273	329	△56
労働災害			54	75	△21
運動競技			50	60	△10
一般負傷			700	685	15
加害			12	20	△8
自損行為			24	21	3
急病			2,135	2,467	△332
その他	転院搬送		349	364	△15
	医師搬送		0	0	0
	資器材搬送		0	0	0
	その他		14	11	3
合計			3,622	4,038	△416

△印は減少

月別救急出場件数

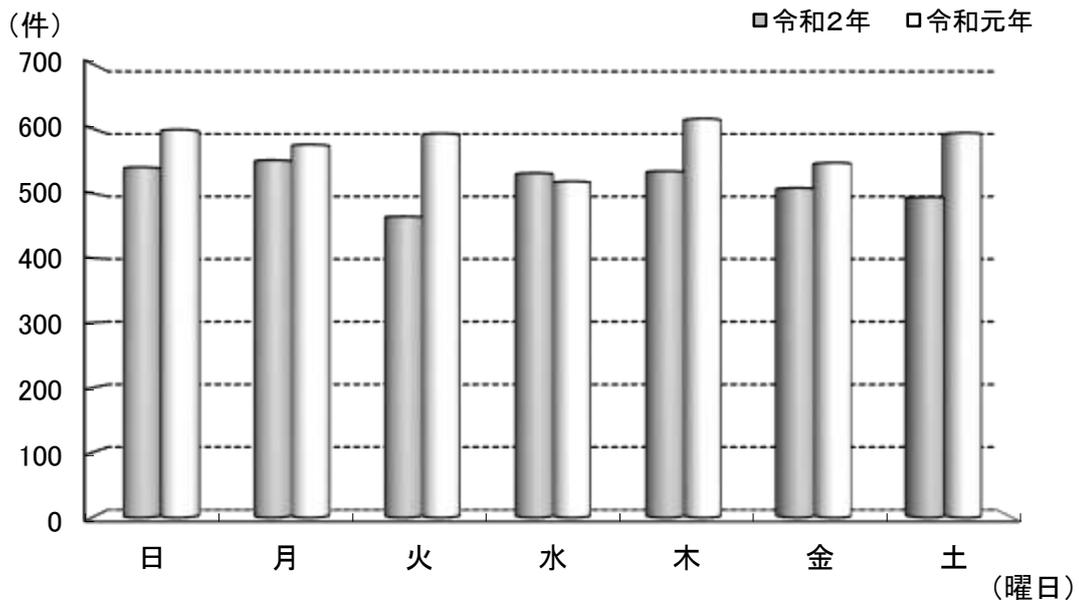
1月が最も多く、続いて8月となっています。最も少ないのは4月です。
1ヶ月平均301.8件、1日平均9.9件出場しています。



年 \ 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和2年	389	298	292	233	238	286	287	357	291	294	306	351	3,622
令和元年	391	300	307	317	295	286	341	384	371	350	366	330	4,038

曜日別救急出場件数

月曜日が最も多く、続いて日曜日となっています。最も少ないのは火曜日です。

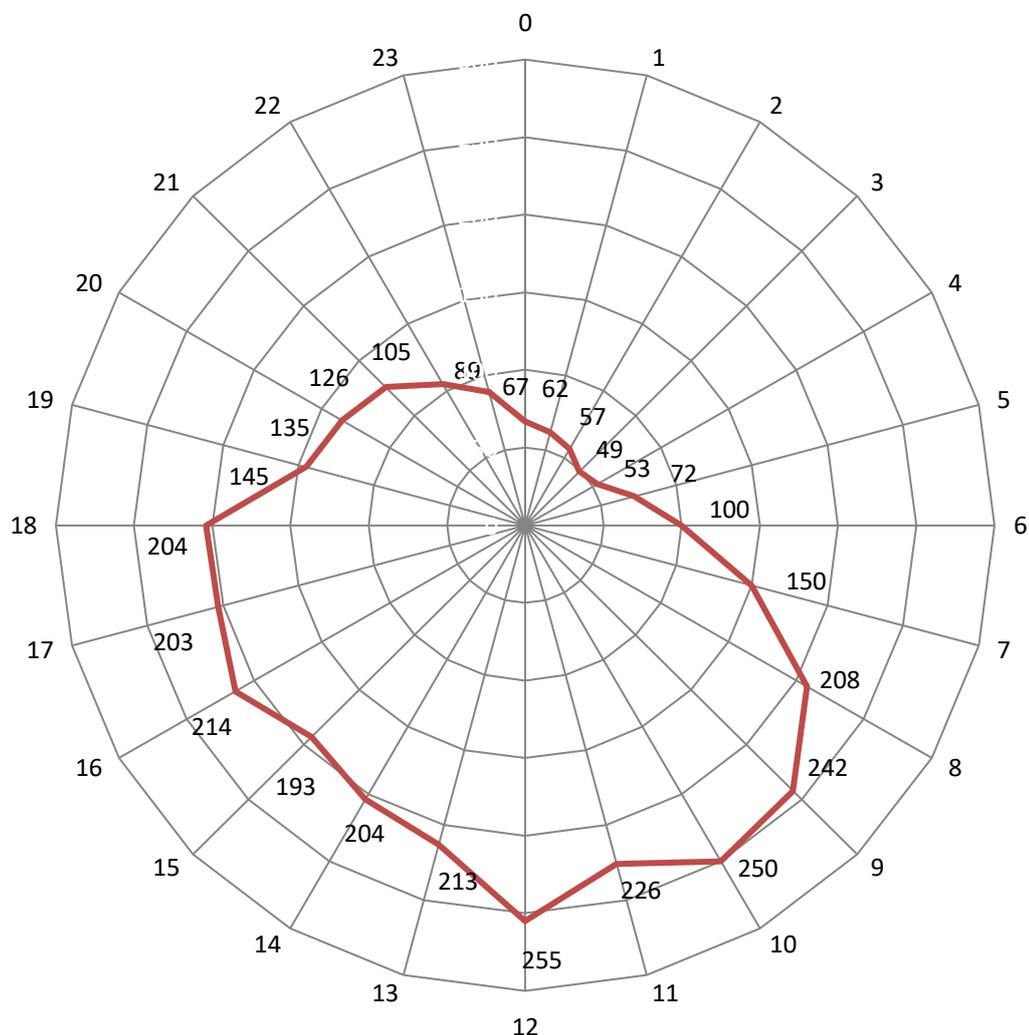


年 \ 曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和2年	540	551	464	531	534	508	494	3,622
令和元年	598	575	592	518	615	547	593	4,038

時間別救急出場件数

12時台が最も多く、最も少ないのは3時台です。

救急出場件数 3,622件



現場到着所要時間別救急出場件数（覚知～現場到着）

現場到着所要時間の平均は7.7分です。5分以上10分未満で現場到着したものが2,429件で、最も多くなっています。

事故種別	所要時間					計	平均時間 (分)
	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上		
急病	3	194	1,509	411	18	2,135	7.6
交通事故	4	23	165	72	9	273	8.6
一般負傷	6	69	466	149	10	700	7.8
その他	4	132	289	77	12	514	7.2
計	17	418	2,429	709	49	3,622	7.7

病院収容所要時間別搬送人員（覚知～病院収容）

病院収容所要時間の平均は39.9分で、最も多いのが30分以上60分未満の2,253人で全体の67.6%を占めています。

所要時間 事故種別	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	計	平均時間 (分)
急病	0	45	441	1,343	108	4	1,941	37.8
交通事故	0	0	24	181	57	2	264	48.3
一般負傷	0	6	103	440	97	1	647	43.8
その他	0	5	147	289	38	1	480	38.2
計	0	56	715	2,253	300	8	3,332	39.9

事故種別救急搬送人員

比較的に減少傾向ですが、火災の増加が目立っています。

事故種別 年	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
令和2年	6	0	0	264	53	50	647	8	16	1,941	347	3,332
令和元年	1	0	0	333	75	58	641	14	13	2,273	362	3,770
増減	5	0	0	△69	△22	△8	6	△6	3	△332	△15	△438

△印は減少

傷病程度別救急搬送人員

軽症1,698人（51.0%）、中等症1,485人（44.6%）、重症114人（3.4%）、死亡34人（1.0%）の順となっています。

傷病程度 事故種別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
死亡	1	0	0	0	0	0	3	0	1	28	1	34
重症	2	0	0	12	4	0	12	0	7	59	18	114
中等症	3	0	0	54	13	6	221	0	5	866	317	1,485
軽症	0	0	0	198	35	44	411	8	3	988	11	1,698
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
計	6	0	0	264	53	50	647	8	16	1,941	347	3,332

発生場所別救急出場件数

住宅内での発生が2,144件で全体の59.2%を占め、そのうち急病によるものが78.1%です。

発生場所 事故種別	住宅	公衆出入 場 所	仕事場	道路	その他	計
急 病	1,674	307	49	69	36	2,135
交通事故	0	9	1	258	5	273
一般負傷	429	122	7	86	56	700
そ の 他	41	404	50	3	16	514
計	2,144	842	107	416	113	3,622

事故種別年齢別搬送人員

高齢者（65歳以上）の搬送が2,216人で全体の66.5%を占めています。

年齢別 事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
新生児（28日未満）	1	0	0	0	1
乳幼児（28日～6歳）	54	9	46	1	110
少 年（7歳～17歳）	43	25	20	36	124
成 人（18歳～64歳）	470	151	109	151	881
高齢者（65歳以上）	1,373	79	472	292	2,216
計	1,941	264	647	480	3,332

性別科目別搬送人員

性別では男性が多くなっています。科目別では内科が1,705人で最も多く、脳神経外科、整形外科、外科の順となっています。

科目別	外科		整形外科		脳神経外科		内科		小児科		精神神経科	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	145	86	265	324	342	283	937	768	48	37	6	5
科目別	産婦人科		眼科		耳鼻科		泌尿器科		その他		合計	
性 別	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	14		7	1	13	14	28	6	1	2	1,792	1,540

高速道路における救急活動状況

高速道別		事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
中国道	出動件数		2	1	0	0	3
	搬送人員		1	0	0	0	1
	不搬送件数		1	1	0	0	2
舞鶴道	出動件数		1	0	0	1	2
	搬送人員		1	0	0	1	2
	不搬送件数		0	0	0	0	0
山陽道	出動件数		6	7	1	0	14
	搬送人員		4	5	0	0	9
	不搬送件数		2	2	1	0	5
計	出動件数		9	8	1	1	19
	搬送人員		6	5	0	1	12
	不搬送件数		3	3	1	0	7

応急処置件数

応急処置		事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
応急処置対象人員(人)			1,939	263	646	480	3,328
止	血		8	6	45	9	68
被	覆		3	44	147	34	228
固	定		9	123	88	18	238
保	温		51	15	13	11	90
酸素吸入			280	22	31	106	439
人工呼吸							0
心臓マッサージ							0
心肺蘇生			51	1	8	9	69
在宅療法継続			17			1	18
血圧測定			1,886	257	624	472	3,239
聴診器			268	71	38	50	427
血中酸素飽和度測定			1,906	262	641	474	3,283
心電図測定			1,271	81	162	254	1,768
気道確保			99	1	15	19	134
経鼻エアウェイ							0
喉頭鏡・鉗子			1		3		4
* リンゲアルマスク等			34		2	7	43
* 気管挿管			3		3		6
除細動			7				7
* 静脈路確保			31	2	5	5	43
* うち心肺機能停止前			3	2		1	6
* うち心肺機能停止後			28		5	4	37
* 薬剤投与			18		4	3	25
* 血糖測定			15				15
* ブドウ糖投与			2				2
その他			28		11	15	54
計			5,950	885	1,832	1,480	10,147

*印は、救急救命士の特定行為

救助出動状況

出動件数70件で前年比10件増加となりますが、救助人員については34名で増減はありませんでした。

年別	区分	出動件数 (件)	活動件数 (件)	救助人員 (人)	出動台数 (台)	出動人員 (人)
令和2年		70	45	34	209	612
令和元年		60	40	34	181	502

地区別救助出動件数

三木地区が17件と最も多く、次に自由が丘地区の12件となっています。最も少ないのは、口吉川地区の1件です。

地区	種別	火災	交通事故	水難事故	機械による 事故	建物等による 事故	その他	合計
三木		2	6			7	2	17
三木南						5	1	6
別所			2			3	1	6
志染			5	1		2	1	9
細川			2			1		3
口吉川			1					1
緑が丘						6		6
自由が丘		1	1			10		12
青山						3		3
吉川			1			1	2	4
管外			1					1
その他			2					2
計	出動件数	3	21	1	0	38	7	70
	活動件数	3	14	1	0	23	4	45
	救助人員	1	14	1	0	14	4	34

発生場所別救助出動件数

住居での事故等が39件で全体の55.7%を占め、次に道路での事故が16件となっています。

場所	種別	火災	交通事故	水難事故	機械による 事故	建物等による 事故	その他	合計
屋内	住居	3				36		39
	その他					2		2
屋外	高速道		2					2
	道路		16					16
	池川等			1				1
	その他		3				7	10
地下								0
その他								0
合計		3	21	1	0	38	7	70